自然災害科学 *J. JSNDS 30-1 55-57*（*2011*）

東日本大震災速報

災害ボランティアの被災地支援

矢守　克也*

本稿では，東日本大震災の被災地におけるボランティア活動の現況について速報する。

この速報を執筆している現時点でも，また今後も，重要な意味をもつと思われる一つのデータから紹介しよう。それは，東日本大震災の被災地では，活動するボランティアの数が，後に「ボランティア元年」と称せられる機縁ともなった阪神・淡路大震災（1995年）の被災地と比べると――少なくともこれを執筆している2011年５月初頭の時点では――圧倒的に少ないことを示すデータである。

レスキューナウ（2011）のレポートによれば，被災地で活動するボランティアの数（１日あたりの平均）は，以下の通りである。東日本2,190人，阪神約20,000人（災害発生から20日経過時点），東日本3,250人，阪神19,025人（同40日経過時点）。すなわち，東日本大震災の被災地では，後述するように，被災地の面的拡がりが阪神・淡路大震災のそれと比較して一桁違う（もちろん前者が後者の10倍広い）にもかかわらず――実際はむしろ，10倍広いがゆえに，と言うべきだが――，東日本大震災の被災地で活動するボランティアの人数は，一桁少ないわけである。

もちろん，この事実だけに依拠して，本大震災におけるボランティア活動について，たとえば「低調である」といった結論を早計に引き出すことは控えなければならない。まず，このデータ自体，いくつかの留保条件のもとで理解すべきものである。たとえば，上記の人数は，東日本大震災については，全国社会福祉協議会が岩手県，宮城県，福島県の３県についてとりまとめた数値であり，阪神・淡路大震災については，兵庫県による推計値である。よって，たとえば，社会福祉協議会（が掌握しているボランティアセンター）が関知していないボランティアが相当数活動しているなど，東日本大震災の数値が大きく増える可能性はある。しかし，筆者自身の被災地での感触から推しても，この数値の桁を一つ変えるほど，社会福祉協議会を経由しないボランティアが被災地で活動しているようには思われない。また，2011年４月末から５月初めのゴールデンウィーク期間は，おそらく数年後に振り返っても，今回の災害を通じて，ボランティアの活動人数が最も多くなった期間となると推測されるが，それでも，５月３日のピーク（この日は筆者自身，被災地でボランティア活動をしていた）の数値11,500人が最高で（全国社会福祉協議会地域福祉部，2011），阪神・淡路大震災の平均20,000人というペースとは大きく異なっている。

以上の格差が生じた原因については，通常，「津波被害の範囲が広大で支援の必要な地域が広いこと（近隣地域も被災）。現在も予断を許さない原発事故，微量ながら各地で水や土壌から放射性物質が観測されたこと，東電管内で計画停電が実施されたことなど，多重複合型災害であったこと」（レスキューナウ，2011）といった説明がなされ，実

* 京都大学防災研究所
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

際こうした説明は適切なものだと思われる。たとえば，上記したように，東日本大震災と阪神・淡路大震災とは，その空間スケールがちょうど一桁異なっている。具体的には，東日本大震災の主要被災地は，青森県から千葉県周辺まで全長500キロにわたっている。

これに対して，阪神・淡路大震災の被災地となった市町村は，おおむね50キロ圏内（さらに都市部だけに限れば，30キロ圏内）に収まっていた。そのため，被災地の周縁地域（たとえば，大阪など）から，徒歩や自転車（プラス部分的に利用できた公共交通機関）で，被災地に日帰りでボランティア活動に出かけることが可能であった。この空間スケールが，大量のボランティアを被災地に呼び込む一因となった。この空間的アドバンテージが，東日本大震災では，仙台市およびその近郊など一部の例外を除いて欠落していることは，事実である。加えて，原発事故の影響が懸念される地域で，したがって，本来，より多くの支援が必要だと考えられる地域でかえって，ボランティアの活動が低調であることも，たしかである。

しかし，以上のことは，東日本大震災ではボランティアの活動が全面的に低調であることを意味するわけではない。被災地の空間スケールが非常に広域にわたるという課題，あるいは，被災地域の地域性が非常に多様である（たとえば，都市部もあれば海岸沿いの小集落もある，ベッドタウンもあれば漁村もあるなど）という課題を逆手にとった，新しいタイプの，そして今後が期待される意義深いボランティア活動も多く見られる。つまり，東日本大震災が，超巨大災害（超広域災害・超長期災害）であること（矢守，印刷中）であることを踏まえ，かつ，そこから要請される「広域当事者性」（矢守，印刷中）の確立を展望した新しいタイプのボランティア活動も芽生えている。ここでは，その一部を簡単に列挙して，本速報を閉じたい。

まず，日本型の，つまり「民」主導の「対口支援」と見なしうる活動がある。「対口支援」とは，もともとは，四川大地震後に中国政府（「官」）が採用した被災地支援枠組である。日本ではペアリング支援とも称され，特定の支援団体（自治体・地域・民間団体など）と特定の被支援団体が長期的な関係を保持して支援を継続的に行うものである。その長所と短所については，顧（2011）による整理を，また，その日本における適用上の課題について詳細は，矢守（印刷中）を参照されたい。東日本大震災の被災地では，具体的には，特定の災害NGO（被災地外）が特定の被災地の支援に継続的に入ったり，特定の学校が被災地の特定の学校の支援にあたったり，あるいは，ある業界で，A社は被災地のX社を，B社は被災地のY社の支援にあたることを業界全体として決定したり，といったケースを観察することができる。

次に，上記と関連して，東日本大震災では，阪神・淡路大震災は言うに及ばず，その後の中越地震（2004年），中越沖地震（2007年）などよりも，復旧・復興のステージまでをにらんだ中長期的な関係づくり（場合によっては，それに必要となる被災地内での拠点づくり）を念頭に置いたボランティア活動が，被災後早い時期から進行している点も重要である。たとえば，神戸市に本拠を置く「被災地NGO協働センター」が，現地の団体などを共同で設置した「岩手県遠野災害ボランティア支援センター」などは，その代表例である（被災地NGO協働センター，2011）。

さらに，原発事故などの影響により，もともと広域な被災地から，さらに遠方の地域に避難した被災者に対するボランティア活動も盛んである。たとえば，新潟県は，福島県内からの避難者をもっとも多く受け入れた都道府県である（4月末時点で約34,000人中約7,800人）。県内の市町村では，自治体によって違いはあるものの，多くのボランティアが避難所や受け入れ先の集合住宅等で支援活動にあたっている。一例をあげれば，筆者が，「日本災害救援ボランティア・ネットワーク（NVNAD）」（兵庫県西宮市）の活動を通じて訪問した新潟県小千谷市では，市職員とともにボランティアの方々が，民間企業の協力も得ながら，福島県からの避難者約200名の支援にあたっていた（日本災害救援ボランティア・ネットワーク，2011）。

これらのボランティア活動も，もちろん，超広

域災害における重要なボランティア活動であるが，しかし，こうした遠隔地で被災者支援にあたっているボランティアは，上記の人数にはカウントされていない。さらに加えれば，上記のNVNADは，新潟県における福島県からの被災者の支援活動としてのボランティア活動（たとえば，募金活動，救援物資の収集・仕分け・発送など）を兵庫県内で進めているが，これらの活動にあたるボランティアも，上の統計数値には入ってこない。このような構図は，むろん，ここで例示したNVNADのケースに限られるわけではなく，今般の超広域災害の被災地支援のさまざまな場面で見られ，これらの全貌をどのように把握し，かつ，被災地（被災者）のための支援へとオーガナイズするかは，今後重要な課題となろう。

最後に，超広域災害であるからこそ，被災地にはアプローチできない遠隔地においても従事できるボランティア活動として，さまざまな新しい形式が模索されている点も重要である。これも一例であるが，たとえば，社会貢献学会が主導する「あなたの思い出まもり隊」は，津波等で水や泥をかぶった写真（アルバム）などを無料で復元をするボランティア活動である。被災地で収集した写真等をいったん被災地外（遠隔地）に送ることで，遠隔地の多くのボランティアが，写真の洗浄，デジタル化，印刷などの作業に従事することを可能にしている（社会貢献学会，2011）。

以上に列挙した活動は，超広域災害だからこそ誕生し，かつ期待も大きい災害ボランティア活動については，今後，その成果と課題を注意深く見守っていく必要があろう。

引用文献

被災地NGO協働センター　2011　遠野まごころネットでのボランティアを希望される方へ「岩手県遠野災害ボランティア支援センター」（遠野まごころ寮）のご案内
<http://miyagijishin.seesaa.net/article/197329620.html>

顧　林生　2011　【3・11から】創造型支援での学びあいと住民参加を――四川大地震の対口支援の課題から――〔時事防災Web〕今日の防災一覧・東日本大震災関係　2011年3月22日 JIJI PRESS

日本災害救援ボランティア・ネットワーク　2011　大震災後2回目の小千谷市訪問
<http://www.voluntary.jp/weblog/myblog/544?pageno=3>

レスキューナウ　2011　グラフで見る大震災（ボランティア参加者数：4/29）
<http://www.rescuenow.net/2011/04/423-6.html>

社会貢献学会　2011　「あなたの思い出まもり隊」プロジェクトを開始します
<http://js-ss.org/news/information/entry-67.html>

矢守克也　印刷中　増補〈生活防災〉のすすめ――東日本大震災と日本社会――　ナカニシヤ出版

全国社会福祉協議会地域福祉部　2011　平成23年度　被災地支援・災害ボランティア情報（18号）・東日本大震災（第33報）
<http://www.saigaivc.com/被災地支援-災害v情報/第33報-平成23年5月7日/>

（投稿受理：平成23年5月13日）